日本産ザゼンソウ属の分布

誌名	長野県自然保護研究所紀要 = Bulletin of Nagano Nature Conservation Research Institute
ISSN	13440780
著者名	大塚,孝一
発行元	長野県自然保護研究所
巻/号	5巻
掲載ページ	p. 1-8
発行年月	2002年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council Secretariat

日本産ザゼンソウ属の分布—特にナベクラザゼンソウについて

大塚孝一*

日本産ザゼンソウ属の3種、ザゼンソウ、ヒメザゼンソウ、ナベクラザゼンソウについて、主な植物標本庫の標本に基づいて分布図を表した。ナベクラザゼンソウは長野県産の標本に基づいて記載された新種であるが、今回の調査で、この種は東北地方から北陸地方にかけての日本海側の地域に分布することが明らかになった。

キーワード：ザゼンソウ属、ナベクラザゼンソウ、分布、分布図、日本

はじめに

ザゼンソウ属*Symplocarpus*は、東アジアと北アメリカに2種あるいは3種が知られている（大橋 1982、大井 1987)。その内、東アジアと北アメリカのザゼンソウをそれぞれ別種として扱った場合に3種となるが、現在では同種の種内変異として扱われるのが一般的である。日本においては、ザゼンソウ*Symplocarpus foetidus* Nutt. var. *latissimus* (Makino) Hara (=*S. renifolius* Schott ex Miq.)とヒメザゼンソウ*S. nipponicus* Makinoの2種が知られている。ザゼンソウは心臓形の葉身と大きな仏炎苞、葉の展開に先立って春に花が咲くことを特徴とし、北海道から中国地方以東の本州に分布している。ヒメザゼンソウは卵状心形から卵状長楕円形の細長い葉身と小さな仏炎苞、葉の展開後、葉が枯れかかる頃の夏に花が咲き、果実は翌年に熟すことを特徴としていて、北海道には少ないものの、ザゼンソウとほぼ同様な分布域をもっていて、北海道から中国地方以東の本州に分布している。奥山 (1982,1983) はその著書の中で両種の分布図を示し、日本における分布を明らかにした。

一方、日本産ザゼンソウ属にもう1種存在することが判明し、長野県北部の飯山市鍋倉山産の標本に基づいてナベクラザゼンソウ*S. nabekuraensis* Otsuka et K. Inoueが記載された (Otsuka et al. in press)。ナベクラザゼンソウは腎円形の幅広い葉身と小さな仏炎苞、葉の展開と花が咲くのがほぼ同時であること、また、仏炎苞の全体が地上に出ていることで特徴づけられる。

このナベクラザゼンソウの分布を明らかにするため、下記の植物標本庫にあるザゼンソウ属の標本を検討した結果、東北地方から北陸地方にかけての日本海側の地域に分布することが明らかになってきたので、以下に報告する。

東北大学大学院理学研究科植物分類学研究室標本室（TUS)
国立科学博物館（TNS)
東京大学総合研究博物館植物部門（TI)
東京都立大学理学部牧野標本館（MAK)
信州大学理学部生物学科標本庫（SHIN)
富山市科学文化センター植物標本庫（TOYA)
金沢大学理学部生物学科植物自然史研究室植物標本庫（KANA)
京都大学理学部植物学教室標本室（KYO)
新津地域学園内新津植物資料室（NIITSUと略称する)

日本産の種類と分布

日本産のザゼンソウ、ヒメザゼンソウ、ナベクラザゼンソウの3種の検索を以下に示す。

A葉身は幅広く心臓形か腎円形。果実は花と同じ年に熟し、葉は秋に枯れる……B
A葉身は細長く卵状心形から卵状長楕円形。仏炎苞は小形で果実は翌年に熟す。花は葉が枯れかかる初夏から夏に咲く……ヒメザゼンソウ
B葉身は心臓形で、横より縦の方が長い。花は春に咲き、仏炎苞は大形……ザゼンソウ

* 長野県自然保護研究所　〒381-0075 長野市北郷2054-120

B葉身は腎円形で、縦より横のほうが長い。花は初夏から夏に咲き、仏炎苞は小形
……ナベクラザゼンソウ

ナベクラザゼンソウ *Symplocarpus nabekuraensis* Otsuka et K. Inoue Fig.1 A,B, Fig.2 A.

本種の特徴は以下のとおりである。

多年生草本。根茎は斜上し、直径2－3㎜の根を多数つける。葉は根生し長い柄をもち、3－4枚の葉をつける。葉身は長さ15－25㎝、幅20－40㎝、腎円形で、全縁、無毛、先端でとがり、基部が心形となる。葉柄は長さ20－50㎝で、葉の全体の長さは30－70㎝。仏炎苞と葉の展開は同時で、葉の展開後に花が熟す。仏炎苞は1個体に1－2個つけ、暗紫褐色で長さ4－7㎝、広卵形で先端がとがり、4－8㎝の長い花柄をもつ。根茎は地下のやや浅い所にあり、花柄は地上にでている。仏炎苞は花時直立し、先端は上を向いている。果実となる時は、花柄が伸びて腹向きに曲がり、下向きとなる。果実は花と同じ年の夏に熟し、葉は秋に枯れる。花は両性、花被は4、雄しべ4、花粉は黄色。種子は円形、直径約2－10㎜で、表面はなめらかで、褐色。花の時期は6月後半から7月前半頃。ザゼンソウ属特有のくさい臭いがあり、森林下の沼沢地や開けた湿地に生える。

各標本庫の標本を検討した結果、ナベクラザゼンソウと同定できた標本は下記のものであった。岩手県産の鈴木昌友1964年TNSの標本はヒメザゼンソウと同定されていたが、タイプ標本を除く他のものはすべてザゼンソウとされていた。

本種は今のところ、岩手県から福井県の日本海側のやや標高の高い多雪な地域に分布すると考えられる。今後は、各地で本種の自生が判明してくるものと思われ、調査報告が期待される。

［標本産地］岩手県胆沢郡焼石岳（岩淵初郎 Jul. 28,1933TUS)、同ca.1400m（鈴木昌友 Jul. 20,1964 TNS)、同（安本広静 Aug. 7,1957MAK Fig.1 A)。秋田県太平山（村松七郎 Jun. 3,1934TI)、同奥岳下（村松 Sept. 9,1928TI)、秋田市仁別山（牧野富太郎 1927年MAK)。羽後鳥海山（小泉源一 1929年KYO)。山形県西川町志津680m（石沢進 Oct. 2,1980NIITSU)。羽前大井沢見付近湿原(原寛 Jul. 7,1959TI)。宮城県鳴子町鬼首ca.550m（庄子邦光 Jun. 10,1995TUS)。新潟県新井市大毛無山(岩野俊逸 Jun. 14,1970TUS)、青海町舞込平（岩野 Jun. 13,1976TUS)、大島村菖蒲（石沢 Sept. 21,1981 NIITSU)、安塚町須川菱ヶ岳930m（石沢 Jul. 29,1970NIITSU)、板倉町鍋倉山関田峠1100m(大塚孝一 Jun. 29,2001NAC)。長野県飯山市鍋倉山関田峠1100m（大塚 Jun. 29,2001TI-holotype Fig.1 B、isotype-KYO, KANA, TOYA, SHIN, NAC)、同茶屋池湿原1100m（和田清 Jul. 10,1981SHIN)、同古池湿原ca. 1200m（藤沢正平 Jul. 6,1989SHIN)、同田茂木平～茶屋池（水島正美 Jun. 1,1954 MAK)、栄村野々海1030m（石沢 Sept. 20,1971 NIITSU)。富山県黒部市嘉例沢800m（石沢 Jun. 26,1975NIITSU)。福井県栃ノ木峠（? May. 2,1881TI)。

ザゼンソウ *Symplocarpus foetidus* Nutt. var. *latissimus* (Makino) Hara Fig.1 C, Fig.2 B.

ザゼンソウは、多年生草本で、根茎は地下やや深い所にあり、直立かやや斜上する。葉は根生し、長い葉柄を持つ。葉身は幅広く心蔵形、長さ20－50㎝、幅20－45㎝、基部が心形になる。仏炎苞は春、葉の展開に先立ち出現し、長さ15－20㎝と大きく、先端は伸びて横向きになる。通常、仏炎苞の下部や花柄は地下にある。果実はその年の夏に熟し、葉は秋に枯れる。3種の中では一番大形であり、また、花序を形成する花の数は他の2種よりずっと多い。

東アジアのザゼンソウ*S. foetidus* var. *latissimus*は、学名にもあるように北アメリカのザゼンソウ(アメリカザゼンソウ) *S. foetidus* var. *foetidus*に比べて葉が幅広いという特徴がある。北アメリカのものは葉身の幅がやや狭く、葉だけみるとヒメザゼンソウの葉の幅が広いものといった感じを受ける標本もある。また、北アメリカのものは仏炎苞の縁が著しく内へ巻き込むため、外から花序が見えにくく、悪臭も強い（原寛 1941)。

ザゼンソウ属は種類が少なく、かなりはっきりした種類であったので、今まで珍しさから注目されても分類学的にはあまり関心がなかったと思われる。今後、北アメリカの種類も含めてより詳しく検討される必要がある。また、標高の高い多雪地で雪が遅くまで残る場所にあるザゼンソウは、花の時期が遅く、仏炎苞が小形になり、今後の検討が必要かもしれない。

仏炎苞は通常紫褐色であるが、希に黄緑色のものがあり、アオザゼンソウと呼ばれる。この色は変化があり、純白のものもある。

［標本産地］別記付録参照。

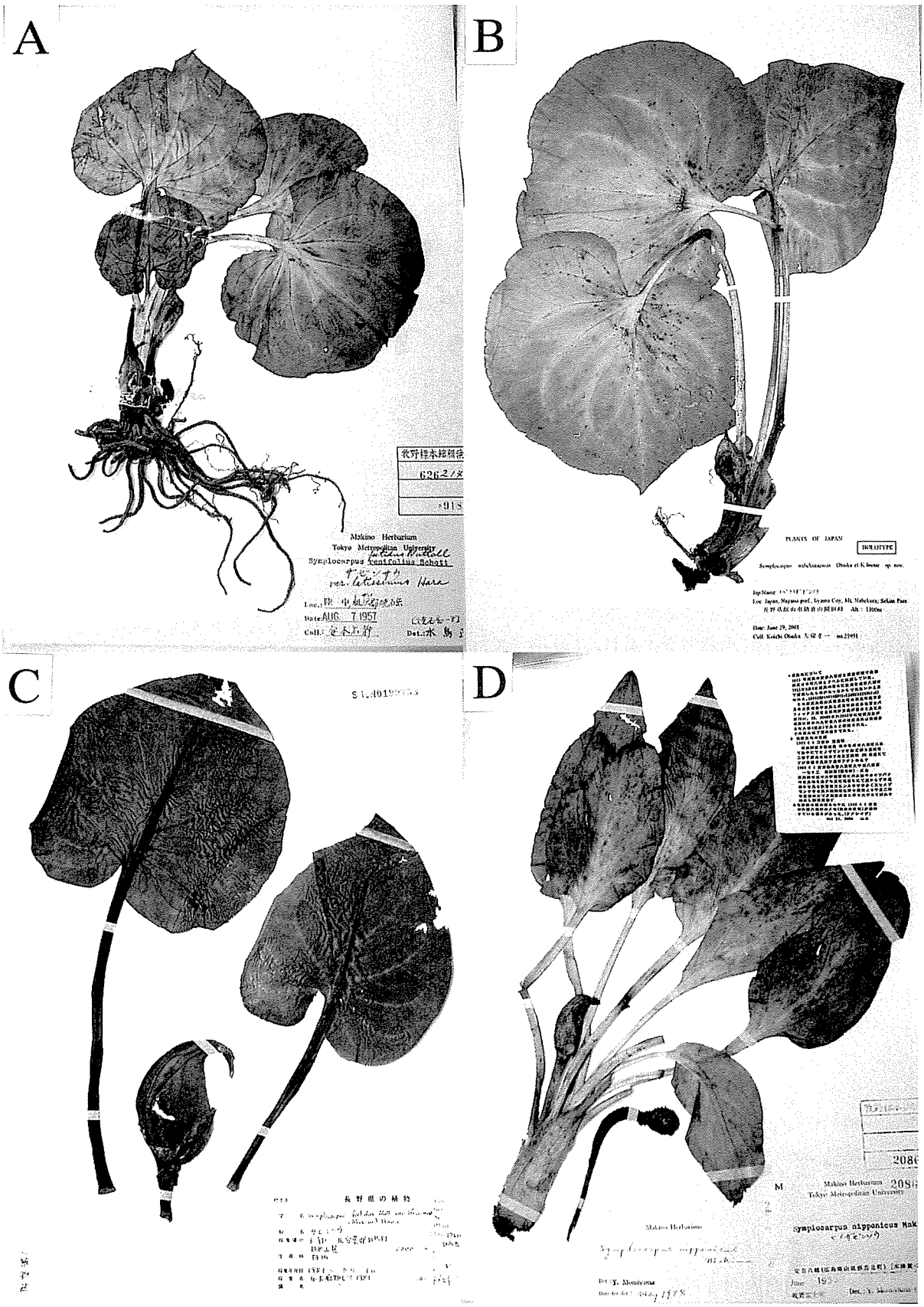

Fig.1. Specimens of *Symplocarpus nabekuraensis* (A, B), *S. foetidus* var. *latissimus* (C) and *S. nipponicus* (D).

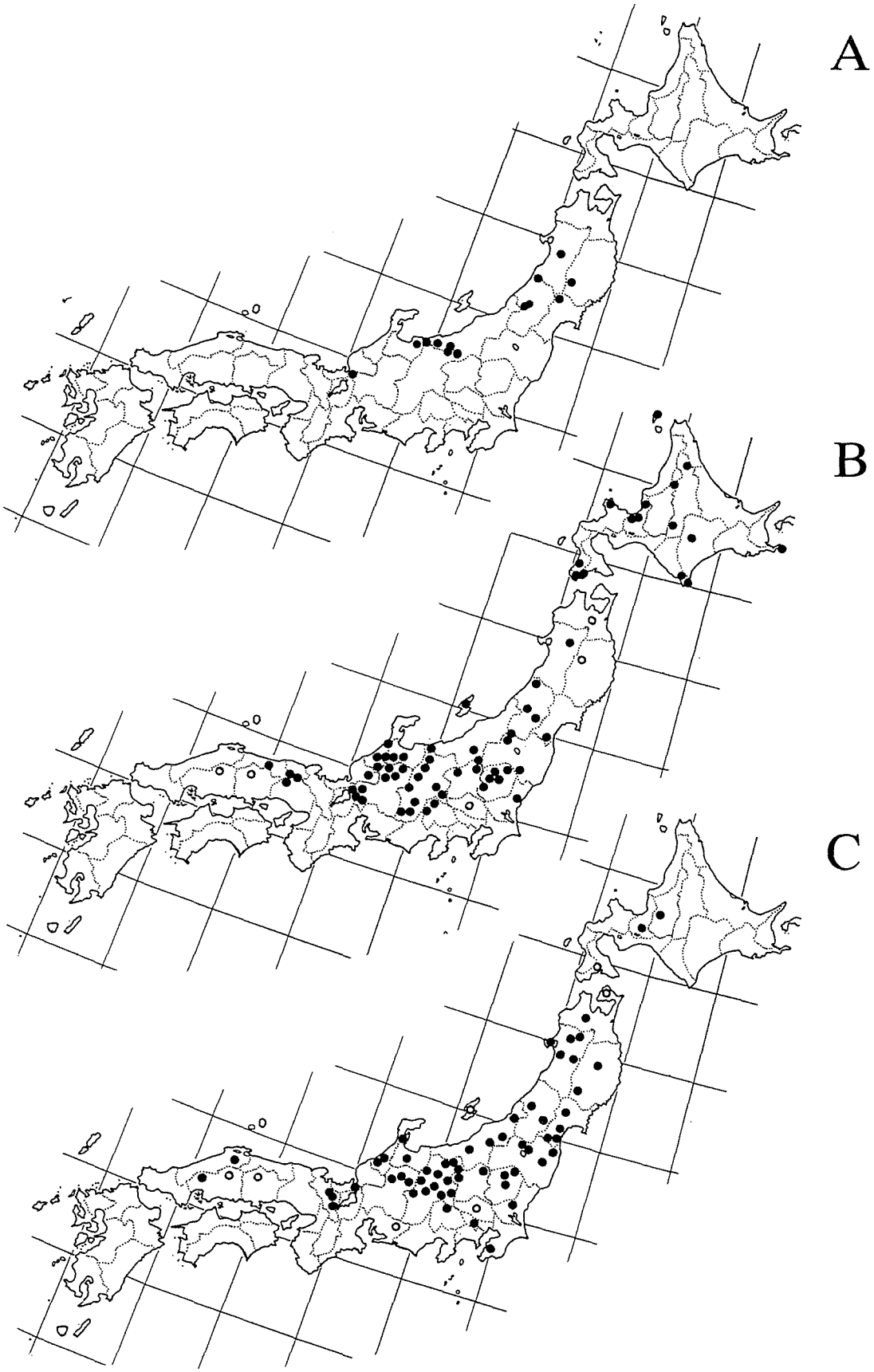

Fig.2. Distribution maps of *Symplocarpus nabekuraensis* (A), *S. foetidus* var. *latissimus* (B) and *S. nipponicus* (C) in japan. Solid circles are based on the specimens and open circles are on the literatures.

ヒメザゼンソウ *Symplocarpus nipponicus* Makino Fig.1 D, Fig.2 C.

ヒメザゼンソウは、多年生草本で、根茎は地下やや深い所にあり、直立かやや斜上する。葉は根生し、長い葉柄を持つ。葉身は細長く卵状心形から卵状長楕円形、長さ10－28cm、幅7－20cm、基部が心形になる度合いは、前2種より弱い。仏炎苞は、葉が枯れかかる初夏から夏に出現し、先端は短く上を向くかやや横を向き、長さは4－7cmと小さいが、地下に長い花柄を持つ。仏炎苞は地上に接して出るごとく、地下にある部分が多い。果実は翌年に熟す。この種の生育地は、前2種が生育する場所程は湿っていない。

ヒメザゼンソウは夏に花を咲かせるが、秋田県田沢湖町産堀井雄治郎1992年KYOの標本は、葉はやや幅広いが仏炎苞は小さく、4月に花を咲かせている。また、長野県飯縄高原にはこれと同じく、春に花をつけるヒメザゼンソウがあり精査が必要である。

仏炎苞は通常暗紫褐色であるが、希に緑色のものがあり、ミドリヒメザゼンソウform. *viridispathus* と呼ばれる。また、斑葉のものはフイリヒメザゼンソウform. *variegata*と呼ばれる。

［標本産地］別記付録参照。

検討した標本に基づいて作成した分布図は、Fig.2のとおりである。分布図は標本に基づいた産地を（●）で、文献産地を（○）で補い、その分布を表した。

ナベクラザゼンソウの分布については、その詳細は今後の調査等に待たれるが、今回の分布図からみても、この種は日本海要素の植物であると考えられる。ザゼンソウとヒメザゼンソウについては、奥山（1982,1983)にある分布図と基本的には同様であるが、より太平洋側にも分布している様子がうかがえる。

謝　辞

各植物標本庫の標本を検討するにあたり、東北大学の横山潤氏、東京大学の大場秀章氏、国立科学博物館の近田文弘氏、東京都立大学の菅原敬氏、信州大学の井上健氏、富山市科学文化センターの太田道人氏、金沢大学の植田邦彦氏、京都大学の村上哲明氏、新津植物資料室の石沢進氏に大変お世話になり、また有益な示唆をいただきました。記して感謝いたします。

引用文献

原　　寛, 1941, 東亜植物考(20), 植物研究雑誌17(11)：631-643

大井次三郎, 1987. 日本植物誌顕花編1584pp. 至文堂　東京

奥山春季, 1982. 1983. 原色日本野外植物図譜Ⅰ・Ⅱ　誠文堂 親光社　東京

大橋広好, 1982. ザゼンソウ属、佐竹義輔他編、日本の野生植物Ⅰ：138. 平凡社　東京

Otsuka, K., Watanabe, R. and Inoue, K. (In press) A New Species of *Symplocarpus* (Araceae) from Nagano Prefecture, Central Japan, J.Jpn. Bot. Tokyo

付　録

検討した標本の産地を以下に記す。括弧内は採集者、採集年又は個人標本番号、標本庫名である。

ザゼンソウ *Symplocarpus foetidus* Nutt. var. *latissimus* (Makino) Hara

［標本産地］北海道：礼文島船泊～スコトン岬（邑田仁 1986年TI)、名寄市(Miyake 1906年TNS)、空知幌加内町母子里（村田源他 1978年TI)、石狩厚田村厚田川ぞい（H. Takahashi他 1985年TUS)、札幌東郊（秋山茂雄 1950年TNS)、同丸山（S, Tamaki 1912年TI)、鹿追町（三諸聖子 1975年TNS)、ニセコ新見温泉上（原寛・黒沢 TI)、南富良野町夕張岳東麓360-370m（村田・矢原 1978年TI)、根室納沙布（S. Okamoto ? KYO)、日高様似町鵜苫60-100m（山路弘樹 1997年TUS)、えりも町庶野トセップ（立石庸一 1975年TI, KYO)、積丹アルチップ（大井次三郎 1931年KYO)、江差町キンコマナイ～パンケナイ50m（村田源他 1978年KYO)、知内町（工藤宥馬 1907年MAK)、同萩砂里水湿地（工藤 1908年MAK)、福島町知内川上流200-250m（H. Takahashi 1982年TUS)。宮城県：丸森町峠ca300m（Y, Ueno・T, Mori 1977年TUS)。秋田県：北秋田郡大葛村金山(松田孫治 1938年TI)、羽後森吉山800m(原寛 1959年TI)。山形県：山形市外滝山村三本木沼500m（結城嘉美 1938年TI)、羽前月山(山崎敬 1942年TI)、西川町志津700m(津軽・高橋 6627KYO)。福島県：金山村(今井直吉 1934年TNS)、西会津町奥川クラタニ沢400-700m(村田源 1977

年KYO)、岩代飯豊山（島津標本 1914年TI)、表郷村金山330-335m（米倉他 1997年TUS)。茨城県：水戸（後藤正巳 1958年TI)。栃木県：宇都宮市古賀志山（奥山春季 1957年TNS)、那須町コブカボリ（北村四郎 1971年TNS,KYO)、同寄居（鈴木貞雄 1931年TUS)、今市市文挟付近（牧野富太郎 1938年MAK)、下野石裂山（奥山・奥山 1966年TNS)、鹿沼市東大芦村山（橋本巳之作 1906年MAK)、安蘇郡郡氷室村450m（金井弘夫 1926年TI)。群馬県：六合村暮坂峠（増田公平 1969年TNS)、片品村尾瀬（牧野富太郎 1929年MAK)、同三原～竜宮小屋1400m（植田・伊藤 1978年KYO)。新潟県：佐渡入川～タダラ峰（奥山春季 1954年TNS)、同妙見山930m（池上 1960年KANA)、小出（奥山 1966年TNS)、尾瀬東電小屋付近（植田・伊藤 1978年KYO)、青海町黒姫山（安嶋隆 1976年KANA)。富山県：魚津市南又谷580m（坂井奈緒子 2000年TOYA)、大山町小原500m（太田道人 1985年TOYA)、八尾町桐谷（村田源他 1969年TNS,KYO)、利賀村金剛堂山1450m（太田 1989年TOYA)、平村相倉～カグマ峠300-600m（村田源 1976年KYO)、東礪波郡小瀬峠～細尾トンネル700-1065m（村田源 1987年KYO)、福光町下小屋～ブナ尾峠（N. Mino 1964年KANA)。石川県：押水町沢川（A. Tanaka 1990年KYO)、金沢市高三郎山犀川ダム付近360m（津軽俊介 1990年 TNS,KYO)、鶴来町不動滝（福岡誠行 1960年KYO)、辰口町（福井武 1968年KANA)、小松市丸山町五百峠南420-440m（米倉浩司 1994年TUS)、白峰村谷山峠（二階重樓 1909年TNS,TI)、同市ノ瀬～三ツ谷800m（堀田満 1961年KYO)。福井県：大野市上打波（M, Takeuti 1967年MAK)、同雲川ダム～温見峠600-800m（伊藤元巳他 1987年KYO)。山梨県：高根町清里（小野・小林 1964年MAK)、鳳凰山鳥居峠1000m（山崎敬 1954年TI)。長野県：白馬村猿倉荘近くca1100m（清水建美 1974年SHIN)、白馬村（牧野富太郎 1908年MAK)、同白馬山麓（信大ゼミ 1981年SHIN Fig.1. C)、大町市平簗場（布万里子 1979年TNS)、同居谷里湿原～中綱湖（水島正美 1957年MAK)、堀金村大野沢800-900m（橋渡勝也 1988年SHIN)、南安曇須砂渡（小泉秀雄 1922年TNS)、奈川村境峠1400m（清水・土田 1971年SHIN)、松本市三才山700-800m（清水建美 1981年SHIN)、蓼科山赤沼平湿地（原寛 1959年TI)、八千穂村池ノ平（佐藤邦雄 1959年TI)、南牧村野辺山1300m（山崎惇 1980年SHIN)、川上村信州峠1400m（植松春雄 1949年TI)、駒ヶ根市南入（金井弘夫 1979年TNS)、高森町越田ca780m（浅野一男 1990年SHIN)、阿南町新野830m（伊藤文男 1982年SHIN)、浪合村治部坂峠ca1200m（浅野一男 1989年TUS)。岐阜県：高鷲村蛭ケ野800-900m（村田源 1962年TNS,MAK,KYO,SHIN)、大垣市（牧野富太郎 1902年MAK)、吉城郡坂下村ニゴイ（金井弘夫 1956年TI)、白川村大窪700-800m（Takahashi・Takano 1985年KYO)、坂内村広瀬（福岡誠行 1963年KYO)、春日村美束～クニミ峠600m（福岡誠行 1963年KYO)、同伊吹山麓（梅村甚太郎 1901年MAK)、清見村森茂890m（長瀬秀雄 1988年KYO)、河合村保峠780m（長瀬秀雄 1988年KYO)、宮川村うつぼ～万波（鳴橋直弘 1973年KANA)。滋賀県：浅井町金糞岳600m（村田・福岡 1970年TI,KYO)。兵庫県：波賀町音水330-400m（矢内正弘 1994年TNS)、同戸倉500-700m（村田・堀田 1968年TNS)、三方町氷ノ山700m（村田・岩槻 1968年TNS,MAK,TI)、村岡町瀞川山500m（村田源 1970年TI)、八鹿町妙見山700-800m（黒崎史平 1986年TUS,KYO)。和歌山県：田辺市（牧野富太郎 1904年MAK)。鳥取県：駒的渓（大上宇一 1900年MAK)。

［文献産地］埼玉県（さいたまレッドデータブック1998年)。青森県・岩手県・岡山県・広島県（奥山 1982年)。

ヒメザゼンソウ *Symplocarpus nipponicus* Makino

［標本産地］北海道：空知郡美唄沼之内（S. Saito 1926年TI)、札幌郡広島町三別山140-160m（立石庸一 1991年TUS)。青森県：浪岡町梵珠山（木村啓 1995年MAK)。岩手県：玉山村蛇塚（中池・山本 1985年TNS)、胆沢郡佐倉河村白井坂（岩淵初郎 1935年TI)。宮城県：白石市虎岩（上野雄規 1978年TNS,TUS)、名取市大沢60m（S. Ogawa et al. 1985年TI)、角田市小田南山ノ内160m（T. Mori 1992年TUS)、岩井出山町上山里（笠原正吉 1984年TUS)。秋田県：秋田市（村松七郎 1932年TNS,TI)、鷹巣町（汲川隆三 1969年TNS)、大館町（松田孫治 1938年TI)、上川治村（松田 1938年TI)、仙北郡蟹場温泉～乳頭山（原寛 1958年TI)、男鹿半島寒風山入口（望月陸夫 1964年KANA)、田沢湖町抱返り（堀井雄治郎 1992年KYO)。山形県：山形市外滝山村（結城嘉美 1938年TI)、朝日村谷地幅～早田川（T. Kurosawa et al. 1990年TUS)。福島県：三春町（S. Tamaki 1909年TI)、猪苗代町翁島（鈴木貞次郎 1954年TUS)、相馬市玉野490m（米倉浩司他 1998年TUS)、同南小野30m（上野雄規 1982年TUS)、耶麻郡雄国沼1100m（松田行雄 1983年SHIN)。茨城県：筑波町筑波山（牧野富太郎 1933年MAK)。栃木県：今市市文挟（牧野富太郎 1940年MAK)、同平ケ崎（鈴木貞雄 1964年TUS)、宇都宮市（牧

野 1930年MAK)、同古賀志(山崎敬 1943年TI)、栃木市柏倉町(古瀬義 1959年TNS、1958年TI)、那須大深堀(原寛 1984年TI)。群馬県：嬬恋村吾妻鉱山(増田公平 1971年TNS)、上野至仏山（水島正美 1950年TI)、同尾瀬上田代（原寛 1929年TI)。千葉県：君津郡鹿野山（牧野富太郎 1930年MAK)。東京都：八王子市片倉（N. Kato 1974年MAK)。新潟県：北蒲原郡黒川村胎内川50m（TetK 1962年TI)、東蒲原郡上川村払川100m（池上義信 1966年TUS)、南蒲原郡守門岳（佐竹義輔 1959年TNS)、下田村下大浦30m（伊藤至 1983年TI)、小国町新町（岩野俊逸 1982年TUS)。富山県：八尾町桐谷～小井波300-400m(村田源他 1969年KANA)。石川県：小松市金平町（津軽俊介 1986年TNS)、七尾市石動山麓（小牧 1962年TNS)、同(里見信生 1959年KANA)、辰口町来丸神社(T. Hukui 1969年KANA)。福井県：敦賀郡愛発村(田代善太郎 1934年TI,KYO)、敦賀市池の河内(里見信生 1979年KANA)。山梨県：須玉町信州峠(植松春雄 1949年TI)。長野県：信濃町野尻湖畔(吉川純幹 1958年TNS)、飯山市沼湿原ca850m（藤沢正平 1989年SHIN)、木島平村北ドブ湿原1540m（松田行雄 1978年SHIN)、大岡村日影新田(峯村まさ 1958年MAK)、同聖山800-1000m(清水建美 1966年SHIN)、真田町菅平(奥山春季 1957年TNS)、佐久市初谷内山牧場（佐藤邦雄 1959年TI)、望月町寺久保1100m（小沢正幸 1994年SHIN)、大町市平(牧野富太郎 1927年MAK)、安曇村上高地(奥原弘人 1983年SHIN)、松本市入山辺大和合940m（松田 1985年SHIN)、塩尻市牛道峠（浅川富雄 1983年SHIN)、霧ヶ峰平原ノ湿原（小泉秀雄 1923年TNS)、上諏訪町(小泉 56103TNS)、開田村末川1100m（井上健 1997年SHIN)。岐阜県：高根村1220m(長瀬秀雄 1990年KYO)、荘川村六厩950m（長瀬 1988年KYO)。京都府：京都市大悲山～あしび谷(堀田満 1962年MAK)、同左京区大布施（富樫誠 1967年TNS,TI)、美山町三国岳640m(津軽俊介他 1992年KYO)。広島県：芸北町（牧野富太郎 1933年MAK Fig.1. D)、同（鈴木貞雄 1933年TUS)、西城町八鉾(丸山厳 1938年TI)、東城町八幡村（W. Sato 1933年KANA)。島根県：仁多郡布施（？ 1934年TNS)、同郡三井野（丸山厳 1934年KYO)。ミドリヒメザゼンソウ：岐阜県高山市下切町580m（長瀬秀雄 1985年KANA)。

［文献産地］新潟県両津市（新潟県植物分布図集第8集 1987年)。埼玉県（さいたまレッドデータブック 1998年)。愛知県(レッドデータブックあいち 2001年)。北海道・青森県・岡山県・広島県（奥山 1983年)。

Distribution of *Symplocarpus* (Araceae) in Japan ; especially of *S. nabekuraensis*

Koichi OTSUKA

* *Nagano Nature Conservation Research Institute, 2054-120 Kitago, Nagano, 381-0075 Japan*

Abstract

The distribution maps of Japanese *Symplocarpus, Symplocarpus foetidus* var. *latissimus, S. nipponicus* and *S. nabekuraensis,* are presented based on the specimens of some herbaria. *S. nabekuraensis* is a new species which has the type locality in Nagano Prefecture. The present research revealed that this new species is found from the Tohoku to the Hokuriku districts along a broad band inland of the Sea of Japan.

Key words: *Symplocarpus, Symplocarpus nabekuraensis,* distribution, distribution maps, Japan